

ほりきりがわ
堀切川水系河川整備計画

平成 20 年 7 月

兵 庫 県

目 次

第1章 河川整備計画の目標に関する事項	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 河川整備の現状と課題	2
1. 治水の現状と課題	2
2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題	3
第3節 河川整備計画の目標	4
1. 河川整備計画の対象区間	4
2. 河川整備計画の対象期間	4
3. 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	4
4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 河川環境の整備と保全に関する目標	4
第2章 河川整備計画の実施に関する事項	5
第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の 施工により設置される河川管理施設の機能の概要	5
第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所	6
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	7

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

堀切川は、西宮市の西端に位置し、芦屋市との境界で大阪湾に注ぐ流域面積 0.5km²、河川延長は約 0.8km の二級河川である。

堀切川の河床勾配は約 1/650 であり、河道は垂直なコンクリート護岸となっている。

堀切川流域は、流域の 92%が西宮市で残りが芦屋市となっている。流域内の最大標高は高塚山で約 80m 程度である。

明治初期には農地が広く残されていたが、明治以降の道路や鉄道の発達により、交通の利便性が向上し、住宅地としての市街地の拡大が図られ、現在は流域の約 89%が市街地となっている。

堀切川の地質は、流域南部及び沿川地域の低地部は沖積層である。また、流域北端付近の丘陵地は大阪層群となっている。

気候は瀬戸内海性気候に属し、年降水量は 1200mm～1300mm 程度と少ない。兵庫県の日本海側での降水量が 2000mm 程度あるのと対照的である。平均気温は 15.8℃と温暖である。

兵庫県の南東部では、台風期だけでなく梅雨期にも集中豪雨が発生しやすい。その原因として、湿潤な空気が南の海上から紀伊水道を経て、この地域に直接流入し、それが地形的に収束されるためであるとされている。

また、大阪湾に面した堀切川は高潮の被害を受けやすく、過去に大きな被害を受けた。

流域の歴史・文化としては、流域内には高塚古墳がある。また、京都や大阪と西国を結ぶ要所であり、鎌倉時代には楠木正成と足利尊氏の古戦場となった記録がある。

文化施設としては、大谷記念美術館、河口部の大浜町に菊池貝類館がある。

第2節 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題

堀切川では、昭和36年6月の梅雨前線、昭和42年7月の梅雨前線による豪雨により浸水被害が生じている。このため、昭和45年に中小河川改修事業に着手し昭和61年に完了した。

また、大阪湾に面した堀切川は高潮の被害を受けやすく、昭和9年9月の室戸台風では、大浜町の堤防が全壊し阪神電鉄以南の大半の地域が浸水した。戦後には、昭和25年9月のジェーン台風、昭和36年9月の第2室戸台風などの高潮では、阪神電鉄以南の地域が浸水している。このため、昭和42年に高潮対策事業に着手し昭和50年に防潮樋門と排水機場が完成した。

2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題

河川水の利用について、現在農業用水などの取水は行われていない。

また、現在河川の水面利用は行われていない。

河川の両岸は住宅地で、河道は直線的に整備されており特筆すべき河川景観を有しない。

堀切川の沿川は住宅地が並び、河道の護岸は垂直で感潮区間であるため、河道内に植生はほとんど認められない。河道内で確認された生物種は少ないが、河口部は香櫨園浜^{こうろうえんはま}の西端に位置し、鳥獣保護区となっている。

鳥類は、水面上ではカルガモ、カワウなどの水辺に生息する種が確認され、周辺の住宅地付近ではドバト、ハシボソガラスなどの民家周辺に生息する種が確認されている。

魚類は、阪神電鉄^{はんしんでんてつ}付近でマハゼが確認されている。

河川の水質は下水道整備が進むとともに水質は改善されており、近年のBOD(75%値)は2～5(mg/l)程度で推移している。

しかし、感潮河川で流速が小さいためヘドロが堆積しやすく、悪臭が発生することもある。河床に堆積したヘドロは、悪臭の原因となるばかりでなく、栄養塩類の溶出により水質悪化の原因ともなるため適宜浚渫し、河川環境の保全を図る必要がある。

第3節 河川整備計画の目標

1. 河川整備計画の対象区間

本整備計画の対象は、堀切川水系全ての法定河川とする。

2. 河川整備の対象期間

本整備計画の対象期間は、計画策定から概ね20年間とする。

3. 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

堀切川では、概ね100年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守るための治水施設が整備されている。今後、これらの施設の適正な維持管理を図る。

さらに、改修途上段階における施設能力以上の洪水や整備目標流量を上回るような洪水の発生に対しては、自治体、地域住民などと密接な連絡や協力を保ち、地域の水防活動を支援し、被害の軽減に努める。

4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する目標

現在、河川水の利用はないが、震災などの緊急時には、利用されるよう配慮する。水質については、今後も関係機関と連携し、水質の改善に努める。ゴミの不法投棄などについて、定期的に河川状況の確認を行い、汚濁防止に努める。また、流域住民が河川愛護活動に積極的に参加するよう広報活動に努める。さらに、突発的な水質汚濁に対しては、関係機関と協力し適切な対応を行っていく。

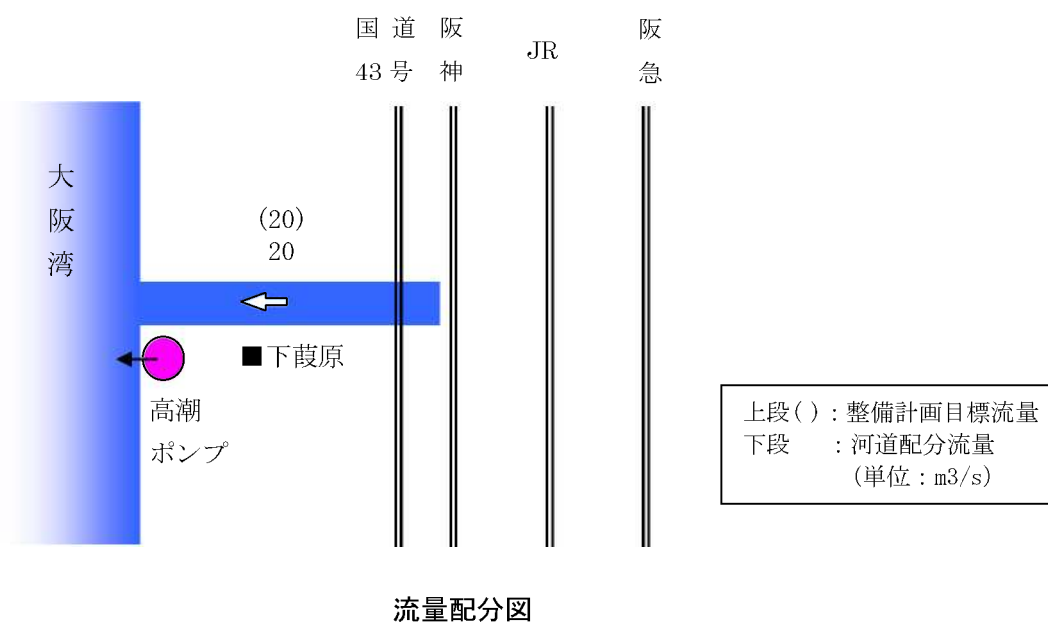
また、今後も動植物の生息状況等について、モニタリング調査を行い、河川環境の把握に努める。

第2章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 河川工事の目的、種類及び施工の場所

堀切川では、概ね 100 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守るための治水施設が整備されているため、今後、これらの施設の適正な維持管理を図る。



第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所

災害発生の防止、河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全を考慮して、河川管理施設を適切に維持管理するため、具体的に下記の事項に努めるものとする。

(1) 河川管理施設の維持管理

河川管理施設の機能を十分に発揮させることを目的として、堤防、護岸及び他の河川工作物等の定期的な巡視、点検、整備を行うとともに、高潮の排水機場などの機能低下を防止するため、機器の更新、補修を行う。

また、大雨、洪水、台風等により災害が予想される場合や出水後は、巡視を強化し、異常箇所を早期に発見し、その対策を行う。

(2) 堆積した土砂等の管理

堆積した土砂等は、洪水時の流下能力を維持するため、適宜河川状況の確認を行うことにより堆積状況を把握し、必要に応じて周辺河川環境を考慮しながら除去等の対策に努める。

また、河床に堆積したヘドロは悪臭の原因等になるため、必要に応じて除去する。

(3) 河川情報の高度化及び提供

洪水に備えるための雨量情報をインターネット等で市民に提供するとともに周知に努める。また、西宮市及び芦屋市等の関係機関と連携してこれらの情報の強化・拡充に努める。

(4) 水量・水質の監視等

適正な河川管理のために、日常的に雨量・水量の把握を行うとともに、定期的に水質の把握を行い、必要に応じて地域への情報提供を行う。また、河川巡視や関係機関との連携により水質事故等の早期発見と適切な対処に努める。

第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

(1) 下水道等との連携

現在、下水道による雨水対策としては概ね 1/6 の安全度を確保しているが、市街化の進展のため流出量の増大や集中豪雨に対して十分でなく、近年においても浸水被害が発生している。

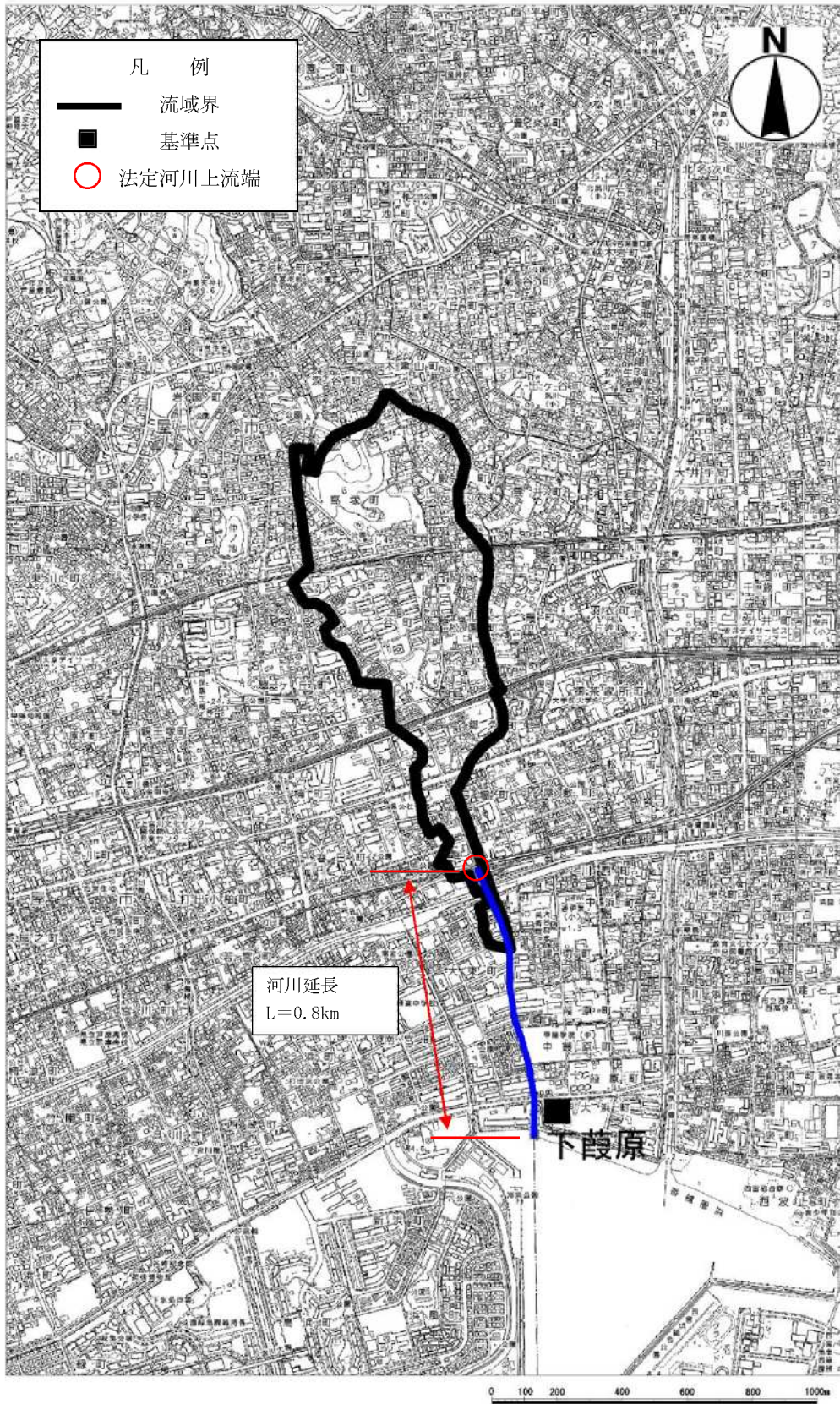
この対策として、西宮市の下水道計画では管渠整備とあわせて学校や公園を利用した雨水貯留施設の整備等により雨水対策の強化を図ることとしている。

維持管理等による河川工事にあたっては、上記下水道計画や河川が下水道に与える影響等も考慮し、下水道管理者である西宮市と十分に調整、連携を図ることとする。

また、総合的な治水対策を推進する観点から、流域からの雨水の流出抑制のため、都市・農林・環境など関係する分野の機関並びに住民・団体・企業等との連携に努める。

(2) 防災意識の向上

地域住民一人一人が防災意識を高め、洪水時には迅速かつ的確な警戒・避難を行う必要がある。このため、情報伝達体制及び警戒避難態勢の整備を行うとともに、ハザードマップ作成を支援し、地域住民への情報提供を行う。



堀切川水系図